

初詣

「一年の始まりは住吉さんから」大阪の古い格言にもそうある。住吉大社では正月三が日に約 200 万人もの人々が初詣に住吉大社を訪れる。

大晦日の真夜中前には本宮(第一本宮)の賽銭箱に小銭を入れて、一年の幸運を祈るために長蛇の列ができる。屋台で食べ物やお土産が売られ、お祭りの雰囲気醸し出す。つかの間のお正月を楽しみ、心機一転する。人があまりにも多いので、参拝者の中にはお賽銭を前の人の頭の上に投げてしまう人もいる。神社の屋根の端を見ると、賽銭箱を外れた小銭が屋根板の間に挟まっているのが見える。

住吉大社の神職は、新年を迎えるために様々な神事を行う。元日の午前 5 時に、彼らは神聖な井戸から水をくみ上げ、それを神社の 4 人の守護神それぞれに捧げる。これは浄化と再生を象徴する行為だ。その約 1 時間後の日の出には、国家の安泰と一年の豊作を祈願する。

1 月上旬に行われる他の神事には、2 人の神職による宮中の古式ゆかしい儀式や、神楽女と呼ばれる巫女による舞が行われる踏歌神事が 1 月 4 日にある。1 月 7 日の青馬神事では、白馬を神社に連れてきて邪気を祓う。